

スポーツ・コンベンションセンターの進め方に係る検討

令和4年3月の基本構想策定の際に、県議会から「建設コストや後年の維持管理・改修費が県民にとって大きな負担とならないよう十分な検討を行うこと」との付帯意見を頂いていること、また、令和6年第4回県議会定例会では「一度立ち止まってもよいのではないか」、「白紙に戻したらどうか」、「313億円以内で整備できる体育館を再検討すべきではないか」などの御意見を頂いたことを踏まえ、様々な選択肢について検討を行った。

1 数年間整備を凍結するか検討

事業者ヒアリング結果等を踏まえると、何年か待てば建設コストが落ち着くかということなどが見込めず、むしろ、今後も労務費等の上昇が確実に見込まれたことから、整備するのであれば、できるだけ早く整備することが望ましいと考えた。

〈参考：建設コストの見通しに係る事業者、建設関係団体からの意見等〉

（労務費）

- ・ 昨今の人材不足、人件費上昇傾向から R7 年度以降も上昇する可能性が高い。
 - ・ 九州では、今後も半導体工場やデータセンターをはじめ、自動車工場や博多駅周辺・天神の再開発など大型工事が継続的に計画されており、人員確保が困難な状況が続く見込み。
- ※ 令和6年10月、石破首相は、現在、1,055円の最低賃金（全国平均）を、「2020年代に1,500円」にする目標を掲げた。

（資材・設備機器価格）

- ・ 九州では、今後も大型工事が継続的に計画されており、建設コストが更に上昇する可能性がある。
- ・ 建築資材価格は高止まりが続く見込み。
- ・ 鋼材の国内建築受注量は2018年以降減少傾向にあり、値下げの動きが広まる可能性がある。一方、コンクリや木材価格は高止まりとなっており、この状況が続く可能性がある。

2 計画を白紙にするか検討

県体育館・武道館の老朽化がますます進み、遠からず利用を中止せざるを得ない状況になる。

これから先10年、30年、50年後を見据え、施設の整備を断念することが、将来の県民の皆様に対し責任を果たせることになるのか考えたとき、そのような事態は避けるべきではないかと考えた。

〈参考：県体育館・武道館の状況〉

○老朽化の状況

・県体育館

雨漏りや外壁の落下、部分的な改修を繰り返してきたことによる競技フロアの歪みや段差などが生じている。



・県武道館

雨漏りや外壁の落下などが生じている。



○利用状況（令和5年度）

		年間稼働率	年間利用者数
県体育館		92.2%	136,417人
県武道館	柔道場	97.5%	22,972人
	剣道場	96.6%	21,152人
	弓道場	99.7%	18,863人